



現場視察・ヒアリングについて (御報告)

令和5年3月28日(火)

1. 現場視察・ヒアリング先 基本情報

<p>神戸商工会議所</p>	<p>地元企業の経営サポート、地域振興やまちづくり、国や行政への政策提言や意見要望。収入35億円、従業員94名。会員は約12,000事業所。</p> <p>(神戸スポーツ産業懇話会) (2017年9月設立) 会 長：尾山 基 神戸商工会議所 副会頭 [(株)アシックス 取締役会長] 代表世話人：山口 泰雄 流通科学大学 人間社会学部 特任教授 / 神戸大学 名誉教授 世 話 人：関西圏の大学教授など有識者5名 + 在神のスポーツ用品メーカー等主要企業6社 メ ン バ ー：世話人企業を除いた96社・団体 事 務 局：神戸商工会議所 産業部 (スポーツ担当)</p>
<p>バンドー化学 (株)</p>	<p>自動車部品 (伝動ベルト等) ・産業資材等の製造および販売。 売上高 937億円 (連結)、従業員数 4,112名 (連結) / 2022年3月期 本社・R&D、国内 4 工場。海外は15ヶ国、20拠点から製品展開。</p>
<p>(株) アシックス</p>	<p>各種スポーツ用品等の製造および販売。 売上高 4,040億円 (連結)、従業員数 8,861 名 (連結) / 2021年12月期</p> <p>推進体制として、代表取締役社長 CEO 兼 COO をオーナー、CWO(Chief Well-Being Officer)をトップに据え、Well-Being Committee を組織。人事オペレーション部健康推進チームが事務局。国内関係会社も連携し推進。</p>

日時	2023年2月17日（金）
視察委員	塩野委員、松永委員、渡邊委員
視察内容	「神戸スポーツ産業懇話会」におけるスポーツを通じた健康増進や健康経営の取組
取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 神戸商工会議所では、スポーツ産業振興を通じた神戸経済の活性化、都市ブランド力向上を図るため、産学連携組織「神戸スポーツ産業懇話会」を設立し、スポーツ産業規模の拡大や、スポーツシティとしての知名度向上を目標に掲げ、意見交換や交流を実施。 ✓ 会議所会員のバンドー化学（株）では、従業員自ら自身の健康について考え、「わくわく」行動できる仕組みづくり、会社・従業員・健康保険組合が「がっちり」一緒に考える健康経営を推進に取り組む。
視察ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 産学連携組織として、ビジネスマッチングやセミナー、各種イベントを通じて、多くの方がスポーツに取り組むきっかけづくりや、企業が、スポーツと「健康経営」を掛け合わせて考えるような取組を実施。多くの企業が参加し、競い、交流する「企業交流運動会」は、企業単位での健康マインドの向上に大きく貢献している。 ✓ 企業経営において、一人ひとりの心身の健康が企業経営の基盤として、従業員の健康増進の強化を宣言。コロナ禍での健康管理の強化としてオンライン化や課題である従業員の高齢化への対策見直しの取組に着目。



ビジネスマッチング機会の提供など、会員向け公開セミナーを開催



「神戸スポーツインフラを知ろう！」（会員による視察会&交流会）の様様



「企業交流運動会」の様様

コロナ禍の中、運動機会提供をオンライン化（バンドー化学）



主な成果
・工夫

- 懇話会が、地域における産学連携が上手く図られた組織として成立した背景には、**設置1年前から有識者を交えた議論、ニーズ調査など経て立ち上がっており、当初から、スポーツ産業振興を通じた「神戸経済の活性化」と「都市ブランド力の向上」と明確なビジョン**を掲げたこと。
- 神戸市内のスポーツインフラや地域資源を生かし、各種セミナーやマッチング機会の創出を行っており、**スポーツツーリズム等の外から人を取り込む「アウター施策」と、対象者のスポーツイベントといった「インナー施策」の両面から充実**が図られている。
- 懇話会の参画企業は、現在では自らネットワークを作りながら活動し、イベントも各企業のノウハウを生かし、アイデアを集約して開催するなど、**自発的なネットワーク拡大の動き**。
- 神戸市内の事業所を対象に「スポーツ実施率・アクティブライフに関する実態調査」を実施し、**エビデンスデータの把握と活用に取り組んでいる**。また、バンドー化学でも、ゲーム感覚で楽しめる体力測定（元気度チェック）や長期療養者の状況把握、生活習慣病のアンケート実施など、データの把握と活用に取り組んでいる。

課題

- 懇話会の参画企業が連携を図れるよう、様々なビジネスマッチングの機会創出を図っているが、新型コロナウイルス感染症の影響でリアルでの交流機会が減少したこともあり、**横のつながりを作るのには未だ課題がある**。今後、大学との更なる連携の強化も含め、連携機会の創出を図っていくことに期待。
- バンドー化学では、**従業員の高齢化**が進んでおり、長く働ける体づくり・より人生を豊かにするため、**生活習慣病への対策**や**退職後の健康の保持・増進まで見据えた取組**が今後の課題。

日時 2023年2月17日（金）

視察委員 塩野委員、松永委員、渡邊委員

視察内容 従業員のスポーツを通じた健康増進の取組等

取組概要

- ✓ スポーツを通して人々の健康をサポートし、価値ある製品・サービスの提供を目指す企業として、同時に社員のスポーツ参画やスポーツを通じた心身の健康の保持・増進も大切な要素として位置付け、**社内外を巻き込んで、スポーツを通じた健康・快適な社会の実現**に繋がる取組を推進。
- ✓ 令和4年度はスポーツ庁によるスポーツエールカンパニーではブロンズプラス認定も受けている。
- ✓ スポーツ用品等の製造および販売を行う同社の**従業員のスポーツ推進の様々な取組**に着目。

視察ポイント

<ランニングアプリ活用によるオンライン駅伝大会>

ランニングアプリを活用し、全世界から誰でも参加可能な世界規模のオンライン駅伝大会として実施。全世界のアシックスグループ従業員が各地でチームを編成して参加。

<体力測定会（企業向け健康増進プログラム）>

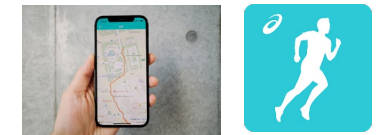
同社スポーツ工学研究所が開発した企業向け健康増進プログラム「ASICS HEALTH CARE CHECK」

（体力測定会）を社内実施。同社独自の判断基準の「健全度（健全年齢）」として評価。

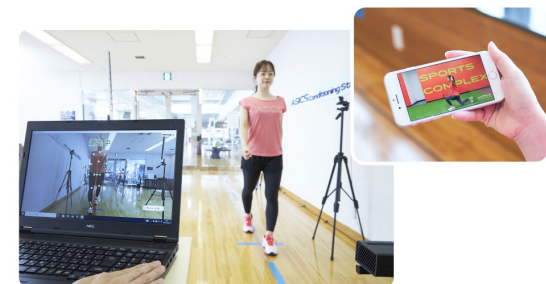
運動習慣等を見直すきっかけとし、理想的な健康サイクルを作る。

<ASICS Well-Being 活動（健康経営の取組）、従業員を対象とした各種運動イベントの開催、地域のスポーツイベントへの参加>

など



ランニングアプリ ASICS Runkeeper™を
活用したオンライン駅伝をグループ内で実施



自社の研究開発による健康増進プログラム「ASICS HEALTH CARE CHECK」による健全度を評価・チェック

主な成果
・工夫

- スポーツ製品・サービスを提供する企業としての**ノウハウを十分に生かし、従業員のスポーツを通じた健康増進**に取り組んでいる。研究活動拠点（アシックススポーツ工学研究所）で開発したサービス（**ASICS HEALTH CARE CHECK**）は、一般国民の質の高いライフスタイルにつなげることを目的として、**社内でも導入・実施し、事業を展開する従業員が自身のセルフチェックと質の高いスポーツ実施**に取り組んでいる。
- オンライン駅伝大会をはじめ、**これまでスポーツを実施してこなかった社員でも楽しくスポーツに取り組めるようなイベントを開催するなど工夫**を行っている。
- スポーツではなく**自身の健康状態の把握**を入り口の一つとし、同社の競技用スポーツ用品等とデザインや色合い、見え方を変えるなど、**スポーツ無関心層でも自然にスポーツに取り組めるような仕組みづくり**も行っている。
- アシックススポーツミュージアムを運営しており、トップアスリートのパフォーマンスを支える**最新の技術や歴史に実際に触れられる**など、**国民にスポーツの魅力を発信**している。

課題

- スポーツ関係企業という特色から、従業員（働く世代）のスポーツ実施率は70%を越えているが、実施率の全体的傾向と同様に、**子育て世代・女性のスポーツ実施率は相対的に低くなっている**。産休・育休制度との連携やICTの活用も含め、同ターゲット層に向けた取組の充実が期待される。
- スポーツ関係企業として、その先行的な取組が社内に留まらず、地域や国民にその取組を広げ、**さらには他企業や行政との連携**、自社の資源（研究開発機関）を生かした取り組みにより、今後、社内外・国民のスポーツ参画が一層進むための**研究事業・サービスの充実も期待**される。